

菊鹿小学校校歌

作詞・作曲 上田 三貴子

- 一 ゆるがぬ姿の八方ヶ岳 清らに流れる内田川
美しきふるさとにはぐくまれ 心豊かに育ちゆく
緑の丘の学び舎は われらが母校 菊鹿小学校
- 二 国を守りし鞠智城 思いは世のため人のため
心を磨いて身を鍛え なかよくかしこくたくましく
あんずの丘の学び舎は われらが誇り 菊鹿小学校
- 三 明るい未来を築くため 勇気りんりんわき起こる
誠の道をひたすらに 夢に向かって学びゆく
輝く丘の学び舎は われらの希望 菊鹿小学校

1 校歌作成に当たって

- 菊鹿の心（豊かな心・地域の温かさ・子どもを大切に思う心・誠実さ）を盛り込む。
- 校訓「なかよく かしこく たくましく」を入れる。
- 内田、六郷、城北の3小学校の校歌に歌われてきた共通の歌詞（緑・輝く・希望）を生かす。
- 統合小学校名称候補として2番目に多かった「あんずの丘」を入れる。
- 歌いやすく覚えやすい、しかも親しみやすい校歌づくりを目指す。

2 歌詞への思い

1 番の歌詞

天に向かってどっしりと揺るぎない姿の八方ヶ岳（矢筈岳）は、こどもたちに信念をもって堂々と生きることを教えてくれる。

内田川の清き流れは、ここに育つ子どもの心も清らかにしてくれる。内田川の流れに心を澄ませ、菊鹿小の子どもたちは健やかな心と体をつくっていく。

四季折々の変化に富む自然と恵まれた風土、そして地域の人々の温かい人情を「美しきふるさと」と表現した。菊鹿小の子どもたちは豊かな自然と子どもを大切にする地域の人々にはぐくまれて感性豊かに育っていく。これまで、菊鹿町では家庭と学校と地域が一体となって子どもたちを育ててきた。これからもそうあってほしい。それが子どもたちの豊かな心の遺産となる。

菊鹿小学校は、子どもたちにとって心を磨き、智を学び、体を鍛える大切な母校である。

2 番の歌詞

菊鹿町の悠久の歴史と文化を誇りとし、先達への感謝の念をもたせたい。菊鹿町の歴史と文化は、そこに育つ子どもたちの品性として醸し出されることを願う。

国を守るために働いた鞠智城の防守たちのように、菊鹿小の子どもたちも人を大切に思い、世のため人のために働くことのできる人に育ってほしい。

校訓「なかよく かしこく たくましく」は、三達徳（三つの尊ぶべき徳）智、仁、勇から成る。なかよく：仁（思いやり）かしこく：智（かしこく）たくましく：勇（たくましく）

菊鹿小学校で学ぶことは、子どもたちにとって誇りである。そういう子どもたちを育てる菊鹿小学校は、郷土の誇りである。

3 番の歌詞

国と世界に目を向けながら、自分の夢や希望に向かって諦めずに挑戦し続ける子どもであってほしいとの願いを込めた。

菊鹿小学校で学んだことすべてが子どもたちの未来に繋がるものであってほしい。菊鹿小学校に勤務する先生方は、子どもたちをりっぱに育てるという気概をもって教育に当たっていただきたい。そして、菊鹿小学校で学んだことが、子どもたちの夢を実現する希望の架け橋になってほしい。菊鹿小学校で学ぶことは子どもたちにとって喜びである。

菊鹿小の子どもたちと菊鹿小学校はいつも輝いていてほしい。菊鹿小学校で学ぶ子どもたちが素晴らしい子どもに育つことは、菊鹿町の誇りである。